

# 年表 古代〔大化一（六四五）〕～現代〔昭和五六（一九八一）〕

時代	西歴	年号	日本 の 動 き	大口町 の こ と が ら
古 代	六四五	大化一	年号の始め。大化の改新	※西歴八〇〇年ごろ小口神社延喜式神名帳に名あり
	六四六	〃二	班田收授 租・庸・調の法を行う。	
	六六七	天智六	近江大津京に遷都	
	六六八	〃七	僧行基生れる。	
	六七二	弘文一	壬申の乱 飛鳥京に遷都	
	六九四	持統八	藤原宮に遷都	
	七〇一	大宝一	大宝律令成る	
	七一〇	和銅三	平城京（奈良に遷都）	
	七二二	〃五	古事記をつくる	
	七二〇	養老四	日本書記をつくる	
	七四三	天平一五	墾田の私有許可	
	七九四	延暦二三	平安京（京都に遷都）	
	八六四	貞観六	富士山大噴火	
	中 世	一一八二	寿永一	
一一八五		文治一	平家滅亡。各地に守護・地頭置かれる	

時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
中世	一一九二	建久三	源頼朝、鎌倉に幕府を開く 承久の変 木曾川をはさみ京都・鎌倉 方争う	余野、徳蓮寺建立(現徳林寺) 〃 全徳寺建立 御供所 八剣社創立 織田遠江守広近 小口の郷に城を築く(大久地城、箭 筈城) 広近 木ノ下(犬山)に城を築き入城する 〃 徳蓮寺を再興し、徳林寺と改号 〃 小口の城へかえり、万好軒を造る 長楽寺建立(現桂林寺の前身、正保年間に改号) 大久地(小口)城主、織田広近、万好軒で没す 小口 妙徳寺創建(織田伊勢守敏定)
	一一九三	永仁一		
	一二九七	〃 五		
	一三三三	元弘三	鎌倉幕府滅亡	
	一三三八	暦応一	足利氏幕府を開く(室町幕府)	
	一三八二	弘和二	南北朝統一なる	
	一三九二	明德三	斯波氏 尾張守護となる	
	一四〇〇	応永七		
	一四五九	長禄三		
	一四六七	応仁一	応仁の乱	
	一四六九	文明一		
	〃	〃		
	一四七五	〃 七		
	一四八四	〃 一六		
	一四九一	延徳三		
一四九二	明応一			
一五三四	天文三	織田信長生まれる		

一五三七	〃 六	犬山城築城	
一五四二	〃 一一	徳川家康生れる	
一五四三	〃 一二	鉄砲伝来	
一五四九	〃 一八	キリスト教伝来(ザビエル)	
一五五八	永祿 一		
一五六〇	〃 三	信長、今川義元を討つ 桶狭間の戦い	
一五六二	〃 五		
一五六九	〃 一二		
一五七〇	元亀 一	徳川家康 浜松に移る	
一五七三	天正 一	室町幕府滅亡 封建社会確立する	
一五七五	〃 三	信長、家康と合し武田氏を討つ 長篠の戦い	
一五七七	〃 五		
一五八二	〃 一〇	明智光秀、信長を本能寺に攻める	
〃	〃	本能寺の変 太閤検地始まる	
一五八三	〃 一一		
一五八四	〃 一二	家康、秀吉の軍を長久手にて敗る。	
〃	〃	小牧、長久手の合戦	
一五八五	〃 一三	秀吉関白となり豊臣の姓をうける。	
一五八六	〃 一四	家康、浜松城より駿河城に移る。	
			兵火により徳林寺焼失
			信長、岩倉城を攻める
			信長 岩倉城を攻略し尾張統一
			兵火により長楽寺焼失
			堀尾吉晴、秀吉にしたがい浅井氏を討つ
			吉晴、姫路で一、五〇〇石を領す
			〃 丹波・氷上の郷で六、二〇〇石余を領す
			吉晴、若狭、小浜で一七、〇〇〇石を領す。※薬師堂(上小口)創立か。
			〃 小牧、長久手の戦いで功名をたてる。
			余野徳林寺、兵乱により塔頭・殿堂を焼く。
			吉晴江州、佐和山で四〇、〇〇〇石を領す。

時代	西歴	年号	日本 の 動 き	大口 町 の こ と が ら	
中世	一五八八	天正一六	秀吉、刀狩の令を發す(兵農分離)		
	一五八九	〃一七	総検地始まる。〃徳川家七ヶ条〃の掟 でる。		
	一五九〇	〃一八	家康、江戸城へはいる。秀吉全国統一 する。	吉晴、浜松城一二万石を領す。堀尾金助 小田原へ出 陣。死す。	
	一五九一	〃一九	尾張検地条目定まる。尾張太閤検地。		
	一五九四	文祿三	秀吉、木曾川の築堤を行う。		
	〃	〃	尾張、三河地方で開こん活発になる。		
	一五九七	慶長二		中島左兵衛尉、余野神社再興。	
	一五九八	〃三	秀吉、伏見城で没す。	全徳寺再興。	
	近世	一六〇〇	〃五	徳川家康、関ヶ原の戦いに勝つ。	吉晴、雲州隱岐二ヶ国二三万石を領す。
		一六〇三	〃八	〃 江戸に幕府を開く。	
一六〇四		〃九		吉晴、従四位下に叙せられる。	
一六〇八		〃一三	尾張の検地(備前検地)		
〃		〃	木曾川の大堤防完工(御囲い堤)		
一六一〇		〃一五	徳川家康、名古屋城築城に着手。		
一六一一		〃一六		吉晴、雲州にて六九才で没す。	
一六三二		〃一七	名古屋城天主閣完成		
一六一五		元和一	大阪夏の陣 豊臣氏滅ぶ。		



時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
近世	一六六六	寛文 六	五人組制度できる。農民衣類制限強化	この頃、戸数五五九戸 人口三、一八五人 大屋敷に長松寺建つ（中島郡奥田より） 萩島円応寺建つ。 小牧代官所設置される。 この頃 戸数一、一三六戸 人口四、七五七人
	一六八八	元禄 一	農村に貨幣経済浸透する。	
	一六九四	〃 七		
	一六九九	〃 一二	人身売買禁止。	
	一七一六	享保 一	享保の改革はじまる。徳川吉宗が將軍となる。寺小屋普及する。	
	一七二〇	〃 五	徳川光圀「大日本史」二五〇巻幕府に献上。	
	一七五七	宝歴 七	飢饉発生。	
	一七五八	〃 八		
	一七八二	天明 二	天明の飢饉。	
	一七八四	〃 四	異学の禁止。	
	一七九〇	寛政 二	アメリカ船船長崎に来航。	
	一八〇三	享和 三	イギリス船浦賀に入港。	
一八二二	文政 五	大飢饉発生。		
一八三二	天保 三	天保の改革始まる。		
一八四一	〃 一二	オランダ使節来航。		
一八四四	弘化 一	米国使節ペルリ浦賀に来航。		
一八五三	嘉永 六	ペルリ再び来航、和親条約締結。		
一八五四	安政 一	日米修交通商条約調印。		
一八五八	〃 五			







一八八一	〃	一四	国会開設の詔下る（二〇・一）、地租改正事業完了。	土田弥十郎県会議員に当選
一八八二	〃	一五	日本銀行開業（二〇・一）	近藤喜兵衛、土田弥十郎県会議員に当選
一八八三	〃	一六	農村危機深刻化。	新木津用水改修（小口村地内堤防改修）
一八八四	〃	一七	区・町村法改正（五・一）	南部、北部に連合戸長役場設置。
〃	〃	〃	戸長、官選になる。	丹羽三九郎、近藤喜兵衛、近藤徳兵衛三名県会議員に当選。
一八八五	〃	一八	学校令制定。太政官制を廃し内閣制となる。第一次伊藤博文内閣成立。	近藤喜兵衛県会議員に当選
一八八六	〃	一九	学校令発布。小学校高等科、尋常科四年になる	
〃	〃	〃	県令を県知事に改称（七・一）	丹羽三九郎県会議員に当選。小口村に巡査駐在所設置。
一八八七	〃	二〇	市制、町村制公布（四・一）	村の統合により、河北、外坪、富成村に
一八八八	〃	二一	市・町・村制施行。地方自治制定まる。	余野、小口、小口村に
一八八九	〃	二二	町村統合。	豊田、秋田、大屋敷、太田村になる。
〃	〃	〃	戸長制廃止。村長、助役、収入役を置く。	
〃	〃	〃	徴兵令改正（一・一）	太田村に巡査駐在所設置。
〃	〃	〃	地租改正令公布。	尋常小学校できる（小口村・太田村）
〃	〃	〃	尾張地方九月大水害を被むる。	（※名古屋に市制がしかれる）
〃	〃	〃	大日本国憲法発布（二・一）	

時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
明治	一八九〇	明治三三	府・県制、郡制公布(五・一) 第一回国會議員選挙施行(七・一) 教育勅語發布(一〇・三〇) 第一回帝国會議召集・憲法施行(二一・一)	
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
一八九一	〃	〃二四	郡制施行(四・一)	小口村大字余野地区、柏森村に合併(八・一)
〃	〃	〃	濃尾大地震(一〇・二八)	
〃	〃	〃二七	日清戦争起こる(八・一)	
一八九九	〃	〃二八	郡制改正。耕地整理法制定。	
一九〇〇	〃	〃三二	農会法、産業組合法公布(三・一)	吉田基治県會議員に当選。
〃	〃	〃	義務教育四ヶ年になる。	
一九〇三	〃	〃三六	日露戦争始まる(二・一〇)	
一九〇四	〃	〃三七	町村合併の訓令出る。	大口村誕生(太田、小口、富成三か村合併、柏森村大字余野大口村に編入)(二〇・一) 大口村役場設置。
一九〇五	〃	〃三八	日露講和条約調印(九・五)	大口村農会発足。
一九〇六	〃	〃三九		人口七、三〇九人 戸数一、四一八戸(村誌による)

一九〇七	〃	四〇	義務教育六ヶ年になる(三・一)	酒井寛朗村長に就任
一九〇八	〃	四一		藤田源太郎村長に就任
一九一〇	〃	四三		晩霜による桑園被害大(四・一)
一九一〇	〃	〃		外坪地区、小牧巾下耕地整理組合へ加入。 社本伊右工門県会議員に当選。
一九一一	〃	四四		大口村耕地面積一、〇一五haとなる。
一九一二	〃	四五		野田正昇、村長に就任 降雹による農作物被害大(四・一九)
〃	〃	〃		強風・降雹による被害大(九・二三)
一九一二	大正	一	名古屋鉄道岩倉・犬山間開通(八・六) (古知野↘押切間二四銭、古知野↘岩倉間九銭)	大口村河北巡查駐在所設置。
一九一三	〃	二		人口七、五六一人 戸数一、三九一戸。
一九一四	〃	三	第一次世界大戦始まる。(ドイツに宣戦布告)(八・一)	大口村青年会発足(三・一)
一九一五	〃	四		野田正昇、村長に就任
一九一六	〃	五	米価高騰、米騒動発生(八・一)	株式会社愛知無尽設立(六・一)
一九一八	〃	七	第一次世界大戦終る(一一・一一)	大口村立農業補習学校が第一、第二尋常高等小学校に
一九一九	〃	八	選挙法改正。	

時代	西歴	年号	日本の動き	大口町のことがら
大正	一九二〇	大正 九	第一回国勢調査実施(二〇・二) 県下人口二、〇八九、七六二人	併設。 大口村人口七、四八四人 戸数一、四八二戸。 野田正昇、村長に就任
	一九三二 一九三三	〃 一 〃 二	関東大震災発生(九・一)	大口村公設消防団発足。 野田正昇、村長に就任(三・一)
昭和	一九二四 一九二五	〃 一三 〃 一四	メートル法使用始まる(七・一) 第二回国勢調査(一〇・一)	野田正昇、県会議員に当選。 大口村人口七、二六五人(男三、六〇八人、女三、六五七人) 戸数一、三九二戸
	一九二六	〃 一五	県下人口二、三一九、四九四人 普通選挙法公布(五・一)	大口村青年訓練所創設(四・一)
昭和	一九二六	昭和 一	地方税制改正(三・一)	
	一九二七	〃 二	府県・市町村制改正(六・一) 普通選挙制採用による県会議員選挙 (九・二五)	野田正昇、県会議員に当選 野田正昇、村長就任。
	一九二八	〃 三	普通選挙制採用による衆議院議員選挙	晩霜による桑園被害大(桑園面積約三二五ha)

一九四〇	〃	五	六大都市で砂糖およびマッチの切符制	
一九三九	〃	四	第二次世界大戦勃発(九・三二)	
一九三八	〃	三	物価統制令(一〇・一八)	
一九三七	〃	二	日華事変起こる(七・一)	
一九三六	〃	一	文化勲章制定(二・一一)	
一九三五	〃	〇	青年学校令制定。	
一九三四	〃	九	室戸台風(九・二二)	
一九三三	〃	七	不況深刻化する。国民生活の規制強化。	
〃	〃	〃	国民更生運動展開(九・一)	
〃	〃	〃	五・一五事件発生。	
一九三二	〃	六	満州事変起こる(九・一)	
一九三〇	〃	五	米価暴落。農業恐慌となる(一〇・一)	
〃	〃	〃	第三回国勢調査(一〇・二)	
一九二九	〃	四	世界経済恐慌、ニューヨーク株式大暴落(一〇・一)	
〃	〃	〃	(一一・一〇)	
〃	〃	〃	二ツ屋昭和協調会設立(一一・一)	
〃	〃	〃	大口村人口七、三三五人 戸数一、三九〇戸	
〃	〃	〃	野田正昇、村長に就任	
〃	〃	〃	野田正昇、県会議員に当選。	
〃	〃	〃	野田正昇、衆議院議員に当選。	
〃	〃	〃	方面委員制度により委員任命される。	
〃	〃	〃	台風による被害あり。名鉄バス小木・小口間運転開始。	
〃	〃	〃	大口村誌発刊(八・一) 第一尋常高等小学校二階建本館竣工。	
〃	〃	〃	日華事変による戦死者一七名、戦病死者一〇名。	
〃	〃	〃	大口村婦人会誕生。	
〃	〃	〃	大口村消防団改称し、大口村警防団となる。	
〃	〃	〃	肥料割当配給となる。第一尋常高等小学校講堂竣工。	

時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
昭和	一九四〇 一九四一	昭和一五 〃一六	<p>実施(六・一)</p> <p>米穀管理規則公布(二〇・一)</p> <p>太平洋戦争始まる(二二・八) 金属の供出令出る。</p> <p>生活必需品資統制令公布。</p> <p>国民学校令公布(三・一) 六大都市で米穀配給通帳制実施。</p> <p>戦時配給品目定まる(二・一)</p> <p>衣料総合切符配給制となる(二二・一)</p> <p>日用品切符配給制となる(塩・マツチ・石けんなど)</p> <p>食糧管理法公布(二・一)</p> <p>学徒戦時動員体制確立(六・一)</p> <p>麦・芋など混合配給始まる。</p> <p>空襲激化。学童疎開(八・一)</p> <p>三河大地震起る(一二・一)</p> <p>金属の供出強化。</p> <p>国民勤労動員令公布(三・一)</p> <p>戦時教育令公布(五・一)</p>	<p>大口村婦人会を、国防婦人会と改称。</p> <p>小学校を国民学校(大口南・大口北)と改称。</p>
	〃	〃	<p>原爆広島(八・六) 長崎(八・九)に</p>	
	一九四五	〃二〇	<p>大口村農業会発足。</p> <p>郵便局開局(小口)</p> <p>大口村青年団発足(九・一)</p> <p>太平洋戦争における大口村戦死者一七四人、戦病死者</p>	



時代	西歴	年代	日本の動き	大口町のこと
昭和	一九三七	昭和三二	労働基準法・独占禁止法公布(四・一) 児童福祉法制定。 農業協同組合法公布。 第一回農地買収実施(三・一) 国民健康保険法改正。 夏時刻法公布(四・一)	大口村警防団改称され消防団となる(八・一) 大口村立中学校開校。P・T・A発足。
	一九四八	〃三三	新制高等学校発足(四・一) 教育委員会法公布(七・一) 主要食糧配給制度強化。 社会教育法公布(六・一) 土地改良法公布(六・一) 湯川秀樹ノーベル物理学賞をうける(一一・三)	大口村農業協同組合発足(三・一) 小学校にP・T・A誕生(六・一)、大口中学校校舎竣工。
	一九四九	〃三四	単一為替レート設定(一ドル三六〇円) 公職選挙法施行(四・一) 文化財保護法公布(五・一) 地方公務員法公布。	社会学級開講(七・一) 大口村養蚕組合設立(四・一) 国民健康保険事業開始(四・一)
	一九五〇	〃三五	魚・衣料の統制廃止	第一回青年学級開講(七・一) 大口村中央公民館竣工(三・一) 大口広報第一号発行(一一・三) 農地交換分合始まる。



〃	〃	〃	第五回国民体育大会愛知県下で開催 (一〇・一)	南・北小学校に保育所併設(二二・一)
〃	〃	〃	朝鮮動乱発生(六・二五) 特需景気起 きる。	
〃	〃	〃	愛知県県章指定(七・一)	社本鋭郎、村長に就任
一九五一	〃	〃	統一地方選挙施行(四・一)	大口村診療所開設(六・一)
〃	〃	〃	愛知県総合開発計画策定。	農業委員会設置。木津用土地利用改良区発足。
〃	〃	〃	児童憲章制定(五・一)	大口音頭・小唄発表(二・一)
〃	〃	〃	サンフランシスコ平和条約締結	井上誠之助役、教育長に就任 教育委員会発足 (一一・一)
一九五二	〃	〃	衆議院議員選挙(一〇・一)	大口神社建立(八・一)
〃	〃	〃	農地法公布。	中央公民館、国より表彰をうける。
〃	〃	〃	破防法公布。	大口北小学校プール竣工。
〃	〃	〃	講和条約発効(四・一)	
〃	〃	〃	名古屋空港開港(三・二〇)	
一九五三	〃	〃	N・H・Kテレビ放送開始(二・二)	酒井康信、教育長に就任
〃	〃	〃	朝鮮動乱終結(七・一)	大口村南保育所(五・一) 北保育所(三・一) 新設。
〃	〃	〃	衆議院議員、参議院議員選挙(四・一)	五条川改修(堤に桜の木植樹)
〃	〃	〃	金融引締。	
〃	〃	〃	町村合併促進法公布(九・一)	

時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
昭和	一九五四	昭和二九	<p>白衛隊発足。 教育二法公布(六・一)</p>	<p>井上誠之助役、教育長に就任 簡易水道、竹田地区(四・一)小折新田地区(二〇・一)設置。 大屋敷地内で縄文時代中期(約四、〇〇〇年前)の土器発掘。 大口村人口八、五五二人 晩霜による桑園被害大(四・一)この頃養蚕家七七六戸となる。 民成紡績(現豊田紡)誘致決まる。</p>
	一九五五	〃三〇	<p>第八回国勢調査(二〇・一) 統一地方選挙。</p>	<p>新農村建設振興地域指定をうける(八・一) 近藤正直、教育長に就任 工場誘致本格化。 村営住宅豊田団地完成。</p>
	一九五六	〃三二	<p>日ソ国交回復。国連加盟。 新市町村建設促進法公布(六・一) ソ連人口衛星打上げに成功(二〇・一) 愛知用水工事着工(一〇・一) 第一期濃尾用水事業始まる。</p>	<p>大口北小学校講堂竣工。大口有線放送開始(四・一) 大口南小学校プール竣工。 文化財保護委員会設置。 伊勢湾台風による被害大 死者三人、負傷者三八人 全壊家屋七七戸 半壊一三五戸 樹木倒折</p>
	一九五七	〃三三	<p>一万円札発行(一二・一)</p>	
	一九五八	〃三三	<p>統一地方選挙(四・一)</p>	
	一九五九	〃三四	<p>国民年金法公布(四・一)</p>	
	〃	〃	<p>伊勢湾台風(九・二六)</p>	

一九六〇	〃三五	日米新安保行政協定調印。 第九回国勢調査(二〇・一) N・H・Kカラーテレビ放送開始(九・ 一)	大口村人口一〇、一六三人 戸数一、八七二戸。 県営住宅垣田団地完成。
一九六一	〃三六	農業基本法成立(六・一) 農協合併促進法制定。 中学校一斉学力テスト実施(二〇・一) 国民年金制度施行(四・一) 愛知用水通水(九・一)	老人クラブ発足。 大口村商工会発足。 大口中学校鉄筋校舎竣工。 都市計画法による区域決定。
一九六二	〃三七	全国総合開発計画決定。	四月一日町制施行「大口町」となる。人口一一、二六 八人、戸数二、一二八戸
一九六三	〃三八	愛知県新地計画策定(三・一) 統一地方選挙(四・一) 老人福祉法公布(七・一) 衆議院議員選挙(一一・一)	社本鋭郎、初代町長に就任 社本鋭郎、県会議員に当選 井上誠之、町長に、大沢治郎、教育長に就任。
一九六四	〃三九	東海道新幹線営業開始(一〇・一) 第一八回オリンピック東京大会開催 (一〇・一〇)	愛北衛生組合共同し尿処理場完成。 大口町総合開発計画審議会条例施行(四・一) 都市計画道路策定、大口中学校プール竣工。 県営ほ場整備事業着手(計画約六〇〇ha)

時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
昭和	一九六五	昭和四〇	名神高速道路全面開通(六・三〇) 第一〇回国勢調査(二〇・一) 明治村開村。 朝永振一郎ノーベル物理学賞をうける (二〇・二二)	農業構造改善事業活発化する。農業の近代化進む。 大口町人口二二、七七八 戸数二、三二一九戸。 大口町・小牧市開発事業団発足。 大口町土地改良区設立(二二・一)
	一九六六	四一	祝日法改正(体育・敬老の日決定) 中部圏開発整備法公布(七・一)	大口町総合開発計画樹立。 工場誘致条例廃止。大口北小学校鉄筋校舎竣工。 大口町診療所改築(三・一) 大口町母子健康センター 開所(五・一)
	一九六七	四二	統一地方選挙(四・一)、 衆議院議員選挙(第三二回) 公害対策基本法公布(八・一)	大口町立西保育所竣工。
	一九六八	四三	川端康成ノーベル文学賞をうける (二〇・一)	大口電話局(無人局)開局(二〇・一)
	一九六九	四四	小笠原諸島日本に返還。 新都市計画法施行。	大口町立南保有所移転新築。 農業振興地域指定をうける(九・一) ライスセンター 施設竣工(九・一)
			第二期濃尾用水事業着工(四・一) 東名高速道路全面開通(五・二六)	国道四一号バイパス町内貫通(二〇・一) 大口中学校校舎改築。



時代	西 歴	年 号	日 本 の 動 き	大 口 町 の こ と が ら
昭和	一九七四	昭和四九	国土利用計画法公布(六・一) 経済不況深刻。	町営住宅、小口団地改築竣工。 第二次大口町総合計画策定。
〃	〃	〃	佐藤栄作、ノーベル平和賞をうける。	大口中学校屋内運動場竣工(三・一)
〃	一九七五	〃五〇	統一地方選挙(四・一)	大口町名譽町民条例制定。
〃	〃	〃	第二期濃尾用水事業完成。	丹羽消防組合発足(一〇・一)
〃	〃	〃	沖繩海洋博覧会開催(七・一)	大竹喜久雄、町長に就任
〃	一九七六	〃五一	東海道新幹線博多まで延長。 核拡散防止条約承認。	大口町立西小学校開校(四・一)、大口町立北保育所竣工。
〃	〃	〃	ロッキード事件国会で究明。	字区域変更について協議始まる。大口南小学校講堂竣工(三・一)
〃	一九七七	〃五二	参議院議員選挙(七・一〇)	社本鋭郎、名譽町民に推せんされる(四・一)
〃	〃	〃	〃	大口町人口一六、〇四二人、戸数三、五二三戸
〃	一九七八	〃五三	〃	総合福祉センター建設始まる。
〃	〃	〃	〃	大口西小学校屋内運動場竣工(一・一)
〃	一九七九	〃五四	統一地方選挙(第九回)	農村総合整備事業始まる。大口中学校増築防音校舎竣工。
〃	〃	〃	〃	大竹喜久雄、町長に就任。第三次大口町総合計画策定。
〃	〃	〃	〃	総合福祉会館竣工(四・一)

	〃	一九八〇	〃	
	〃	〃	〃	
	〃	一九八一	〃	
	〃	〃	〃	
	〃	〃	〃	
	〃	五五	〃	
	〃	五六	〃	
			石油需給不安・物価上昇・省エネルギー時代。 衆・参両議院議員同時選挙(六・二二)	
				尾北自然遊歩道完工。大口北小学校プール改築(七・ ↓) 大口中学校プール改築。大口南小学校校舎増築竣工 (三・一) 下小口、豊田地区学習等共同利用施設完成(三・一) 江口正矩、教育長に就任 大口北小学校講堂防音改築(二・一) 二ツ屋、大屋敷地区学習等共同利用施設完成(三・一)

〈参考文献〉

丹羽郡誌	丹羽郡制史	一宮市史	愛知県の歴史	愛知県統計年鑑	愛知県昭和史上・下	愛知県史	大口町の文化財	郷土大口	大口村五〇年の歩み	大口町勢要覽	大口町総合計画書 (第三次)	広報おおくち	大口村誌	書籍名	昭和一〇	発行年	大口村	著者及び発行者名
大正六	大正一三	昭和四二	昭和四五		昭和四七	昭和一〇	昭和五二	昭和四二	昭和三一		昭和五四		昭和一〇				大口村	大口村
丹羽郡教育会	丹羽郡役所	一宮市	山川出版社	愛知県	愛知県	愛知県	大口町教育委員会	大口町教育委員会	大口村	大口町	大口町	大口町	大口村				大口村	大口村
愛知県小・中学校誌	愛知県教育要覽	愛知県教育史	江南市史文献編	東郷町誌	祖父江町史	扶桑町史	楽田村史	小牧市史	東春日井郡誌	尾張地名考	尾張徇行記	張州府誌	尾張誌	書籍名	昭和四四	発行年	深田正韶	著者及び発行者名
昭和五三	昭和二四	昭和四八	昭和五一	昭和五五	昭和五四	昭和五三	昭和四二	昭和五二	大正一二	大正五	昭和三九	大正五	昭和四四				名古屋史談会	名古屋市教育委員会
県小・中学校長会	愛知県教育委員会	愛知県教育委員会	江南市	東郷町	祖父江町	扶桑町	編さん委員会	小牧市	東春日井郡役所	伊藤喜平	名古屋市教育委員会	名古屋史談会	深田正韶				伊藤喜平	東春日井郡役所